令和７年度　学校経営報告書

八王子市立元八王子小学校　校長　内田　克美

１　今年度の取組と自己評価

	取組目標	重点的な方策	自己評価
【「生きる力」の育成（学びの質の向上）】	〈確かな学力の育成〉 義務教育期間を切れ目なくつなぐ「確かな学力」の定着と向上 【学習指導】	**○小中９年間を見通した「確かな学力」の育成** **・小中一貫『学力向上プロジェクトチーム』の充実** **市学力調査結果の分析による躓きの共有と対応策の検討・実施及び、小中共通「家庭学習スタンダード」の共有** ・放課後子ども教室主催　元八中生徒と高学年児童指導による「放課後学習教室」の充実 ・元八中学校運営協議会主催「漢検」「英検」「数検」への小学生の積極的な参加（元八小学校運営協議会による協賛） **・「学力定着確認テスト」期間（全学年）の実施** **学年をさかのぼる既習事項定着度の定期的な確認及び補充** **・低中高ブロックによる一部教科担任制授業の推進（授業改善・授業力向上）** **○個別最適化学習を通して、「基礎・基本を確実に身に付ける」、「伸びる子をより伸ばす」** ・「学力向上推進計画」に基づく各種取組の計画的・推進 ・週時程に位置付けた補習の時間「元八タイム」の全校実施 **・校内研究「よく考え、自ら学ぶ児童の育成～個別最適な学び・協働的な学びを支える、読み解く力の育成を通して～」による読み解く力を育成するための授業改善、授業力向上** ・PTCA による学習支援体制の充実（学習支援ボランティア）） **○GIGA スクール構想を最大限に活かした学力の定着・向上** ・八王子市版情報活用能力系統表に則した、ICT の系統的・実効的な活	・小中一貫「学力定着プロジェクトチーム」において各校の「家庭学習スタンダード」のすり合わせを行い、小中学校共通で行える取組などの検討を進めることができた。 ・令和７年度「放課後学習教室」は、年１１回実施。低学年児童１３１名中約７割の児童が参加した。今年度も積極的に参加する中学生や高学年児童による学習ボランティアによりきめ細かい指導を充実させることができた。 ・３・４年生では中学年ブロックでの教科担任制を実施し、教材研究の充実や効率化を図ることができた。また、複数回指導することで、授業力向上を図ることもできた。さらに複数の教員が指導することで、一人ひとりに応じた指導がよりきめ細やかに行うことができた。同時に多くの視点から児童を見ることで、一人ひとりの良さや可能性を見出し、伸ばすことができた。５・６年生は学年内の教科担任制を実施し、上記と同様の効果を得ることができた。 ・校内研究「よく考え、自ら学ぶ児童の育成～個別最適な学び・協働的な学びを支える、読み解く力の育成を通して～」を研究主題として年間４回の研究授業を実施し、授業力向上につなげることができた。また、「個別最適な学び」「協働的な学び」について教職員の実践力が高まった。 ・国や市学力調査結果から各種取組の成果として一部 CD 層の基礎学力の定着・向上に一定の成果が見られた。定着向上に向けたさらなる授業改善が課題である。 ・ICT 活用については、授業の一単元の中でまたは一単位時間の中でどのように活用していくのが効果的な活用になるのか、今後も明らかにしていく必要がある。 ・上学年からのスキル伝達により、低

		用 ・毎週末、タブレット端末活用での家庭学習（ICT ドリル） ・「教師力向上タイム」（週１回）、校内研修等、教員研修の充実よる「主体的・対話的で深い学び」の実現 ・異学年間の学びを効果的に取り入れた学習の探究 ・上級生による１：１型 ICT スキル伝達による ICT スキルの獲得・向上 ・キャリアパスポート（学びの記録）の探究 **〇外国語活動における教員の指導力向上** ・音声教材の有効活用、教員研修の充実 **〇「地域連携型キャリア教育」の推進** **・系統的指導（５・６年）の確立、地域実体験型学習の実施・充実** **・社会人・職業人として知識や経験が豊富な地域人材の活用** **〇郷土教育の推進** ・八王子市の食や自然や産業、歴史、文化等について全学年実施 **〇UD(ﾕﾆﾊﾞｰｻﾙﾃﾞｻﾞｲﾝ)を意識した授業づくりの推進** ・特別支援学級担任による教員研修及び授業観察・助言	学年から ICT スキルの獲得・向上が見られた。中学校への ICT 活用の円滑な接続に向けて、八王子市版情報活用能力系統表を基に小中での情報共有を進める必要がある。 ・学校コーディネーターの働きかけにより算数習熟度別指導での地域ボランティアが充実・定着し、学力調査においても CD 層の基礎学力の定着・向上に一定の成果が見られた。算数習熟度各コースへの学習ボランティアの拡充をさらに進めたい。 ・「地域連携型キャリア教育」については、６年生において今年度も地元店舗等と連携した実践を進めることができた。今後も持続可能なカリキュラムとして取り組むことができるように、資料の整理、地域人材の発掘等、引継ぎを確実に行っていく。 ・「笑顔と学びの体験活動プロジェクト」の拠点校として「車人形」の体験学習を実施し、地域の良さや伝統文化の魅力を理解し、地域や郷土を愛する態度が養うことができた。
	〈豊かな心の育成〉 「人間理解に基づく組織的指導・支援」 【生活指導】	**〇中学校区における一貫した生活指導** ・生活指導における各校作成マニュアルの共有（生活指導） ・あいさつ運動の推進（生活指導） **〇『人間理解に基づく組織的指導・支援』** **・「元八スタンダード」、「生活指導スタンダード」、各種「マニュアル」の周知・徹底（教員研修への位置付け）** **・生活指導体制（SST）等、教職員がチームとして一丸となった取組・対応、全校児童の理解深化と対応方針の周知** **・生活指導全体会、夕会における情報及び組織対応の共有化** ・アセスメント(心理、発達)に基づく児童理解の推進、共有化	・第１回小中一貫教育の日に学年分科会において各校の「生活指導スタンダード」を共有し、中学校区としての取組について確認を行うことができた。 ・「人間理解に基づく組織的指導・支援」については、生活指導全体会や週１回の生活指導夕会において報告・協議・改善を進めるとともに SST を活用することで効果的な対応ができ、児童の落ち着きある学校生活につなげることができた。 ・年間を通して朝会や学年集会においてあいさつや言葉遣いなどの相手意識を高める指導を進めることができた。 ・言葉づかいや SNS 利用に関するトラブル等、学校での指導だけでは解決しない問題も多くあり、家庭

		〇特別活動を核としたより良い学校づくり、異学年集団効果を活かした取組の推進 ・「学校（学年、学級）をより良くする」ための児童主体の特別活動の推進 **・責任感や社会性、思いやりの心を育てる異学年活動(たてわり班活動)の充実、自己肯定感・自己有用感を高める指導の工夫** **〇道徳教育の充実** ・「考え、議論する道徳」への質的転換を図る指導方法の工夫 ・実社会のルール、マナーに寄り添った「型の指導」と「心の耕し」 ・相手意識のある言葉、礼儀（挨拶）等の指導の充実。 **・道徳教育の推進による「自己有用感」の育成** **〇人権教育の推進** ・児童主体のいじめ防止の取組、保護者と連携したメディアリテラシー教育、弁護士による法教育授業、新型コロナ感染症を含む差別防止教育 **〇いじめの早期発見・早期解決** **・毎週のいじめ対策委員会における組織的かつ実効的取組の推進。いじめ対策委員会を核とした教員研修及び児童・生徒主体の取組の推進** ・「八王子市いのちの大切さを考える日」の取組の充実 ・命についての校長講話、「いじめ防止標語づくり」（小中一貫）、「弁護士による法教育授業」（５，６年）、「メディアリテラシー教育」（全学年・保護者）、ＳＯＳの出し方に関する教育（全学年）等 **〇郷土学習の推進** ・八王子市の食や自然や産業、歴史、文化等についての交流・体験を通した系統的・体験的な郷土学習の構築 **〇特別支援教育の地域拠点としての機能の向上** ・小中一貫『特別支援プロジェクトチーム』の設置及び教員研修の実施 ・通常学級と特別支援学級の意図的・	での言語環境や SNS の使用状況の確認など、年間を通して家庭への啓発を続けるとともに、家庭との連携強化を今後も進めていく。 ・異学年活動は、遊びを通した「たてわり班活動」だけでなく、各教科等における発表活動の交流等も実施することができ、児童の自己有用感を高め、学習意欲の向上につなげることができた。 ・生命尊重、思いやりや相手意識については、特別の教科 道徳での学習を中心に、「八王子市いのちの大切さを考える日」の取組や道徳授業地区公開講座等の様々な教育活動を通して子供たちに考え実践させることができた。 ・週１回のいじめ対策委員会において、実態把握及び早期対応策の検討を行った。同時に未然防止策の検討及び実施に努めた。 ・隔週で「登校支援コーディネーター」を中心とした登校支援校内委員会を実施し、児童の不登校の状況につい共有するとともに、校内の相談体制やケース会議を密に行ったり、スクールソーシャルワーカーとの連携を図ったりすることで状況に改善が見られた。今後も継続的に取り組み、児童が安心して学校に通えるようにしていく必要がある。 ・月に１回の「校内支援連絡会」を実施し、特別な支援を要する児童の今後の取組方針、不登校傾向の児童への支援のあり方等の情報共有行い、学校全体としての指導方針を確認することができた。 ・特別支援教育の地域拠点としての機能を向上させるため、小中一貫「特別支援プロジェクトチーム」において、児童・生徒情報等の引継ぎ、教員研修への相互参加等、小中学校での取組や情報を共有した。 ・特別支援学級担任による小中一貫研修を実施し、障害理解教育の推進を図った。

		計画的な交流の実施 **〇QU テスト分析による学級集団の心理状況の把握・支援**	
	〈健康な体・体力の育成〉 **健やかな体を育む** **【体力・健康】**	**〇交通安全教育・安全指導の徹底** **・全学年での交通安全教室の実施** **・安全教育プログラムによる交通安全指導の授業実施** **・朝の会や帰りの会での担任による指導の充実** **・教職員による確実な安全点検の実施** **〇体育健康教育の推進** **・体育実技研修による指導力の向上** **・ＩＣＴを効果的に活用した体育授業の改善** ・体力向上、健康教育の推進。 ・養護教諭、栄養士による健康教育、食育の推進 ・健康な体幹づくり（椅子を引いて座る（全学年徹底）） ・健康な生活習慣の確立に向けた家庭との連携（早寝・早起き・朝ごはん、性教育、セーフティ教室、薬物乱用防止教室、避難訓練、登下校指導、地域清掃の日等） ・児童の望ましい食習慣の形成。郷土教育の一環としての「食育」の充実。食物ｱﾚﾙｷﾞｰ対応の徹底。	・今年度は4年生の自転車シミュレータ、２年生の歩行者シミュレータを新規に実施し、１～５学年において外部機関による交通安全教室を実施することができた。来年度以降も継続して交通安全教室を実施していく。 ・校内の危険個所について生活指導部を中心に再確認し、児童への指導及び注意喚起を進めると同時に、学校施設課とも連携し施設・設備の改善に取り組んだ。 ・元ハスポーツ週間の取組とともに集会等も活用し日常的に児童に目標をもたせ、体力の向上を図ってきた。 ・養護教諭による計画的な保健学習や健康教育を推進することができた。また栄養士が中心となり、全学年で計画的に食育を進めることができた。 ・年間を通し全学年で体幹づくり（椅子を引いて座る）を徹底した。まだ、姿勢が崩れる児童もいるため、今後も繰り返し全学級で徹底するとともに、体育学習との連携も図っていく必要がある。

【学校の教育力向上】	**〈組織力の向上〉** **学校の教育課題解決のための校内組織の設置、組織的対応、外部連携の強化**	**〇校内組織の機動的・実効的な運営（「チーム元ハ」）** **・生活指導体制（SST）等、実効的な特設組織づくりと効果的手立てについてマニュアル化、引継ぎ** **・「いじめ対策委員会」の実効的運用：いじめへの組織的・継続的対応による早期発見・早期解決、教員研修の充実** ・「校務精査委員会」：働き方改革対応（校務のスクラップ＆ビルド） ・小中一貫「学力向上プロジェクトチーム」：小中９年間の学力上の課題の把握と対応策の検討 ・小中一貫「特別支援プロジェクトチーム」：小中学校における特別支援教育の推進と、義務教育期における支援の引継ぎ ・「ケース会議」：不登校等、課題ごと	・毎週の主任会では次週予定の確認をするとともに各学年の実態を共有することができた。また、年度途中から主任会を「学校運営参画意識を高める場」として改善を進めることができた。来年度に向けてさらに主体的に学校改善に取り組むことができる場とするために検討を進めていく。 ・「人間理解に基づく指導・支援」の一環として、年度当初より「生活指導体制（SST）」の取組を進めた。全教職員が全児童の情報、背景を共有した上で、児童の様々な不適応行動に対して組織的に対応することができ、児童の心の安定につなげることができた。 ・小中一貫「特別支援プロジェクトチーム」において、特別支援教育にか

		の対策チーム（進捗状況・対応状況の確認、改善に向けた話し合い） **〇人間理解に基づく組織的指導・支援体制の構築** **・元八スタンダード、各種マニュアルの徹底** ・不適応行動への人間理解に基づく組織的対応 ・週１回の生活指導夕会、生活指導全体会による情報・対応の共有 ケースごとの対策会議、対応組織、具体的対策の決定 **〇学校支援活動の充実** ・学校運営協議会における学校改善（「熟議」を取り入れた協議会運営方法の改善） ・「元八小 PTCA」における学習支援活動への更なる充実 **〇地域・家庭の教育力の向上** ・地域の学び舎として、学校・家庭・地域の教育力向上のための学校運営協議会、PTCA 主催『学び舎研修会』の実施 **〇地域における特別支援教育の推進** ・特別支援学級、特別支援教室拠点校のメリットを生かした児童の実態や特性の把握と、９ 年間を見通した組織的・継続的支援（小中一貫「特別支援推進チーム」、特別支援委員会、授業観察、教員研修） ・スクールカウンセラーを中心とした校内の相談体制の充実。教育相談機能のさらなる充実。 **〇関係機関と連携した要配慮児童・家庭の支援** ・虐待、不登校、特別支援教育等、複合的事案に関するケース会議における関係機関連携	かわる各学校の取組や情報共有等、小中一貫３校での連携を進めることができた。 ・週1回のいじめ対策委員会を実施するとともに、案件によっては随時臨時でいじめ対策委員会を実施し早期対応につなげることができた。また、生活指導部による、いじめ防止研修を年間３回実施、教員のいじめ未然防止・早期発見・早期対応への意識向上を図ることができた。 ・いじめ対策委員会で協議した内容や事案については同日に実施する生活指導夕会において全教職員に共有され、学校全体としての取組を進めることができた。 ・通年実施の OJT として「教師力向上タイム」を実施し、教師の資質・能力、授業力を高めるための取組が進んだ。 ・家庭・地域研修会については、今年度は実施できなかったので、家庭の役割や家庭での子供への対応など、学校運営協議会と協議しながら、今後の取り組み方を決定していきたい。 ・不登校については、今年度より登校支援コーディネーターを中心とした登校支援校内委員会を隔週で実施したことで、スクールソーシャルワーカーや子ども家庭センター等関係機関との連携が進み、組織的な対応が進んだ。
	〈教員の資質・能力の向上〉 常に学び続ける魅力ある教師を目指す。	**〇教員の授業力向上** **・一昨年度までの八王子市 GIGA スクール研究推進校での取組を活かした「主体的・対話的で深い学び」の実現、ICT の効果的活用の充実** **・校内研究、「教師力向上タイム」（毎週）、校内研修による教員の相互研鑽の機会確保** ・都教育研究会、小教研等における研究活動への積極的参加及び有益	・今年度も校内研究「よく考え、自ら学ぶ児童の育成～個別最適な学び・協働的な学びを支える、読み解く力の育成を通して～」による読み解く力を育成するための授業改善、授業力向上に取り組んだ。先行研究を進めている元板橋区指導主事の副校長や特別支援教育を専門とする教授、教職大学院教授を講師として指導をいただくことで、

		な教育情報の共有 ・全主任教諭による若手教員・転任教員への５分間授業観察と指導・助言（通年） **○各校務分掌における副主任制の設置（OJT の推進）** **○低中高ブロックによる一部教科担任制の実施** ・学習指導、生活指導側面における効果の把握と改善 **○ＧＩＧＡスクール構想の達成に向けた教員の指導力向上** ・八王子市版情報活用能力系統表に基づく教員研修の実施 **○特別支援教育研修の充実** ・特別支援教室、特別支援教室拠点校の機能を生かした特別支援教育研修の実施 **○いじめ防止研修の充実** ・いじめ防止指導研修の校内伝達研修の実施 **○服務事故防止研修の充実** ・年３回、服務事故防止研修の実施、日常的な情報発信と注意喚起	指導力向上につなげることができた。 ・今年度も中・高学年で一部教科担任制を実施した。教員の授業改善、学年・ブロックとしての組織的な対応力が向上した。低学年における交換授業の推進が課題である。 ・市資料作成委員会（社会）（１名）、市保・幼・小教育推進委員会（１名）、小学校教育研究会への積極的な参加等、学校外でも意欲的な研究活動を行うことで、教科の専門性を高め、授業力向上につながった。 ・特別支援学級については、落ち着いた学習環境が保たれているため、入級希望者が多く、令和８年度は６学級に増給する予定である。今後も地域の特別支援教育の拠点として、組織的に教員の資質を向上に取り組んでいきたい。 ・服務事故防止研修を年間通して計画的に実施するとともに、日常的な声掛けにより、服務事故を防止することができた。服務事故を常に自分事として捉え、全教職員が服務事故を防止する意識向上に努めていく。

【家庭・地域との連携・協働】	**学びの連続性を大切にした教育活動を推進する。** **【小中一貫教育の推進】**	**○義務教育９年間を見通した小中一貫教育の取組** ・「小中一貫教育の日」の取組、「八王子っ子サミット」における生徒会・児童会交流、行事交流、中学校生徒会主導によるあいさつ運動、いじめ防止標語づくり、青少対各種行事への参加、部活動交流等の実施 **○学力向上の取組** **・『学力向上プロジェクトチーム』の充実** ・市学力調査結果の分析による躓きの共有と対応策の検討・実施及び、小中共通「家庭学習スタンダード」の作成。 ・小中一貫教育の日における相互授業参観・情報交流会 ・学力向上に向けた ICT 活用における校内研究・研修の相互参加 ・補習学習、中学生指導による「放課後学習教室」 ・中学校教員による中学模擬授業・進路説明会、	・令和７年度「小中一貫教育に関わる具体的な取組計画」に記載した内容について計画的に実施することができた。 ・放課後学習教室において、中学生のボランティアや高学年ボランティアの参加により、日常的な小中一貫の取組となっている。 ・キャリア教育の一環として、中学校教員による保護者会での進路説明、６ 年児童対象の連携授業を実施した。中学校への円滑な接続として効果的な取組であった。 ・小中一貫「学力定着プロジェクトチーム」において市学力調査結果を共有したことで、義務教育９年間において児童・生徒の学力の定着・向上を図るための基礎資料となった。 ・小中一貫教育の日の取組の中で「家庭学習スタンダード」及び「生活指導スタンダード」を共有し、この地域での取組について検討すること

		・学校運営協議会・ＰＴＣＡ主催『研修会』 ・元八中学校運営協議会主催「漢検」「英検」「数検」への小学生の積極的な参加等 〇その他 ・『特別支援プロジェクトチーム』の充実 ・教員研修の実施・共有、対象児童・生徒の情報及び支援内容の確実な引継ぎ、障害理解教育の推進等を通し、小中学校教員の特別支援教育に関わる理解と指導力を向上させ、切れ目のない支援を実現する。 ・児童・生徒情報の日常的な交流・確実な引継ぎ ・児童・生徒の情報交流を日常的に行うとともに、人間関係や特別な支援、いじめ、不登校、暴力行為等への対応を共有することで、グループ全体で児童・生徒を支える体制を構築する。	ができた。 ・小中一貫「特別支援プロジェクトチーム」の実施により、配慮を要する児童・生徒や不登校傾向の児童・生徒の情報の共有化が進み、９年間を見通した支援の在り方について検討することができた。
	地域の力を活かした教育活動を推進する。 【家庭・地域との連携】	**〇学校教育支援活動の充実** ・学校運営協議会による熟議と、地域の教育力を活用した学校支援組織「PTCA」による学校支援の拡充。学習支援（重点） ・PTCA 実行委員会の設置。学校運営協議会活動の効率的な「熟議」における支援活動の点検・改善 ・学校コーディネーターの活用による、学校支援活動の充実、地域ボランティア等の充実・拡大 **〇児童の見守り活動の推進** **・学校安全ボランティア・保護者の見守り等、地域・保護者による児童の見守り活動を推進する。** **〇児童、教師、保護者、地域の主体性を高めた学校づくりへの取組の推進** ・学校運営協議会、ＰＴＣＡ主催『研修会』（地域・家庭が、学校とともに学ぶ会）の実施 ・「地域の『学び舎』としての元八王子小」の実現 ※学校・地域・保護者がともに学び育つ場の創造 ※近隣校・PTA・学校運営協議会に参加呼びかけ ・放課後の空き教室を活用した放課後子ども教室の拡充（「放課後学習教室」、「放課後図書室開放」、「放課	・PTCA 組織による一人一役活動、など、本部役員会と学校コーディネーターを中心として学校支援体制・支援活動が定着してきている。 ・学校コーディネーターの活用により、地域・保護者による学習ボランティア、読み聞かせ、緑化活動等、日常的な学習支援活動につながり、効果の高い教育活動を行う事ができた。 ・地域運営学校として、学校教育・家庭教育・地域教育各々の役割を果たした上で連携・協働を図ることが重要である。特に家庭の教育力向上に向けた取組を継続的に進めていく必要がある。 ・今年度実施できなかった家庭・地域研修会については来年度以降、どのような形で実施するか、学校運営協議会において協議を進める必要がある。 ・「地域連携型キャリア教育」として地域の店舗等にご協力いただき、地域の活性化につながるカリキュラムの開発、実践を進めることができた。今後は、地域資源や地域人材を保存・開発し共有することで、持続可能なカリキュラムにしていきたい。 ・学校ホームページはほぼ随時更新

		後文化体験活動」（ボランティア室活用）） **〇地域教育資源の有効活用、活用プログラムの開発** **・「地域連携型キャリア教育」の推進** **・地域・保護者の教育力を生かしたキャリア教育の推進（５・６年生）** ・「郷土教育」の推進による児童の地域愛の醸成 ・地域団体との連携による教育活動の充実 **〇地域運営学校（学校運営協議会設置校）の効果的な運営** ・学校運営協議会活動の効率的な「熟議」 **〇地域に開かれた学校づくりを目指した教育活動の積極的な発信** **・学校ホームページにおける学校教育活動、PTCA、学校運営協議会の取組を積極的に発信** ・保護者・地域の方からの、教育活動アンケートの実施、結果の公表。	し、学校の教育活動や地域の活動等、保護者・地域に対して発信することができた。

２　次年度以降の課題と対応策

（１）課題

〇義務教育９年間を切れ目なくつなぐ「確かな学力」の定着と向上

〇小中一貫教育のさらなる充実

〇学校・家庭・地域のさらなる連携と協働

〇持続可能な教員組織・教育活動の確立

（２）対応策（案）

〇義務教育９年間を切れ目なくつなぐ「確かな学力」の定着と向上

・全学年低・中・高学年ブロックにおける教科担任制による教師の授業力向上
・市学力調査結果の分析を基にした授業力の改善（研究推進部による学力定着に向けた取組）
・算数習熟度別指導の改善（指導法の工夫・改善、学習ボランティアの効果的活用）
・校内研究における「個別最適な学び」「協働的な学び」の授業デザイン、「読み解く力の育成」を目指す授業デザインの推進
・校内研修「教師力向上タイム」を活用した教員の指導力向上
・教員の ICT 活用指導力のさらなる向上
・「学力定着確認テスト」期間の設定、「元八がんばりタイム」の実施
・元八スタンダード、各種マニュアルに基づく授業規律の徹底
・PTCA 主催「放課後学習教室」における個別指導体制の強化

〇小中一貫教育のさらなる充実

・「元八王子中学校グループ　小中一貫教育に関わる具体的な取組計画」の推進
（教職員交流、児童・生徒交流、中学校教員による出前授業、地域・保護者連携交流）
・義務教育９年間を見通したキャリア教育の推進（地域人材・地域資源の活用）
・あいさつ運動、標語づくり、青少対各種行事への参加
・元八中学運協主催「漢検」「英検」への小学生の参加
・学習指導における小中学校連携の強化
・学力定着プロジェクトチームによる八王子市学力定着度調査結果の共有・改善策の協議

・小中共通「家庭学習スタンダード」の作成
・元八中生徒による低学年への補習指導（PTCA 主催）
・進路指導、英語科、数学科における中学校教員による６年生への出前授業
・生活指導における各校スタンダードの共有
・いじめ未然防止に向けた取組の強化（標語づくり、児童会・生徒会の取組）
・元八中学校区「はちおうじっ子サミット」等、児童・生徒発信のよりよい学校づくり
・不登校児童・生徒の支援（校内体制の充実（登校支援コーディネーター、S.C.、校内委員会）、関係機関（SSW 等）、中学校との連携）
・「特別支援プロジェクトチーム」による教員研修の実施・共有、対象児童・生徒の情報及び支援内容の確実な引継ぎ

〇学校・家庭・地域のさらなる連携と協働
・学校運営協議会における、学校支援（PTCA）活動の充実
・学校運営協議会における熟議の充実（学校・家庭・地域の役割と連携方法（教員の働き方改革との両立）、PTCA による学校支援、緑化活動）
・学校運営協議会・PTCA 主催の家庭・地域向け研修の実施における家庭教育支援
・学校コーディネーターの活用による、学校支援活動の強化
・「地域協働型キャリア教育」の継続的な開発・実践の推進
・八王子市郷土学習の推進

〇持続可能な教員組織・教育活動の確立
・教員一人一人の資質向上と組織としての取組による課題解決力の向上
・学校運営参画意識の向上を目指した主任会の改善
・「生活指導スタンダード」の徹底・改善（児童不適応時の組織的対応力の強化）
・いじめ対策委員会の定期開催（毎週）によるいじめの未然防止と組織的解決
・いじめ対策委員会による教員研修、児童主体の取組の企画・運営
・特別支援教室拠点校としての地域での役割の強化（巡回校教員研修の実施）
・教員の働き方改革の推進、教員の児童に向かい合う時間の確保（校務精査）
・特別活動における「より良い学校（学年・学級）づくり」に向けた児童主体の取組の強化
・異学年活動(たてわり班活動等)の充実、自己肯定感・自己有用感を高める指導の工夫